

加須市^{しだみひがし}志多見東^{あいち}県自然環境保全地域

加須市^{しだみちゅうおう}志多見中央^{あいち}県自然環境保全地域

加須市^{しだみにし}志多見西^{あいち}県自然環境保全地域

1 指定理由

本地域は、加須市の西部にあり、東流する「^{あいち}会の川^{かわ}」の南側に形成された河畔砂丘である。

このような内陸砂丘は、広大な平野の少ない日本では例の少ないものであり、志多見砂丘は規模も大きく、いまだに当初の形をとどめており非常に貴重なものである。

また、加須低地は森林の発達領域が極めて少なく、本地域のアカマツ林は、砂丘上に成立する特異なものである。

このように、本地域は特異な地形と自然現象を有し、かつ、森林の保護も急務であることから、県自然環境保全地域に指定し、保全を図る。

2 保全区域

(1) 加須市志多見東

所在地 加須市志多見字深町の一部

面積 4.46ヘクタール

(2) 加須市志多見中央

所在地 加須市志多見字中川面の一部

面積 2.43ヘクタール

(3) 加須市志多見西

所在地 加須市志多見字中川面の一部

面積 2.00ヘクタール

3 成立過程

「会の川」は、かつての利根川流路の跡であり、16世紀までは利根川の分流であったと言われているが、この利根川が広大な関東平野を蛇行しながら流下したとき、その蛇行の袂状部^{べいじょうぶ}に多量の砂が堆積され、その砂が卓越風^{あかぎ}（赤城

おろし
風) によって飛ばされ、自然堤防上に集積して砂丘を形成したと考えられている。